

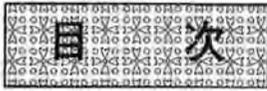
'82四季報

下水道設備

創刊号



東京下水道設備事業協会



- 一千万都民の一助に……………畠山 清二… 1
- 活力ある都市づくりを……………鈴木 俊一… 2
- 機関誌創刊を祝す……………玉木 勉… 3
- 情報は行政の羅針盤……………三上 主啓… 4
- 省エネルギー化を推進……………間片 博之… 5
- 15年目迎えた都の流域下水道……………加藤 矯… 6
- 都下水道の現状と将来……………松下 行雄… 7
- 協会設立について……………小沢勇太郎… 14
- 設備協のあゆみ…………… ” …… 16
- 委員会だより、協会略図…………… 19
- 会員会社紹介…………… 21
- 東京都下水道局機構図…………… 27
- 編集後記…………… 28
- 連絡者一覧表…………… 表紙 3



表紙写真：清瀬処理場 (写真提供 東京都下水道局)

荒川右岸処理区と呼ばれる清瀬市、東村山市など10市にまたがる地域の下水を処理するためにつくられた。昭和56年11月19日に一部通水を開始した東京都で最も新しい処理場。全体計画では1日の処理能力51万3千立方メートル、現在は $\frac{1}{6}$ の5万1千立方メートルが稼働中。

目次

・巻頭言	片岡高示	1
・昭和57年度都下水道予算の概要		
“厳しい環境下で最大の努力”	松下行雄	2
・「連載」都下水道100年の変遷・1	野中八郎	8
・新年度事業に期待する	畠山清二	14
・設備協だより		14
・ニュースレポート・東京都へ陳情		16
・思い出アルバム「忘れ難い用地取得」	武田和吉	17
・下水道施設の省エネルギー対策・新シリーズ	野中徹一	18
・“サロン”京都・松原通り	森敏一	22
・“サロン”ホテルニュージャパン火災から思うこと	岩崎善行	23
・「亭さんと下水道局」	秋山忠二	24
・企業ファイル	荏原製作所	25
“	オルガノ	26
“	三機工業	27
“	東京芝浦電気	28
“	西原環境衛生研究所	29
“	日本鋼管	30
“	日立金属	31
・編集後記		32
・連絡者一覧表		表紙3

表紙写真：三河島処理場（写真提供 東京都下水道局）

文京、台東、豊島、荒川など早くから市街地としてひらけた地域の下水、日量70万立方メートルを処理している。大正11年にわが国最初の下水処理場として誕生、東京の下水道の歴史とともに歩んできた。現在は上部を公苑として都民に開放、憩いとスポーツの広場となっている。

目次

・グラビア	
・巻頭言	木本 巖……………1
・下水道技術の現状と今後の動向	間片 博之……………2
・特別寄稿・設備協の発展を祈って	佐野 幸作……………7
・「連載」都下水道100年の変遷 II	野中 八郎……………8
・「現場からの提言」 これからの維持管理に思う	長濱 健彦……………13
・下水道施設の省エネルギー対策・シリーズ	大音 透……………14
・随筆・加圧脱水機と共に	岩谷 明利……………22
・随筆・人生50年「烏兔匆々」	和田 守雄……………23
・サロン・この頃思うこと	笹倉 光雄……………24
・新入会員紹介(住友重機械工業)	……………25
・設備協だより	……………26
・企業ファイル	石垣 機工……………27
"	栗田 工業……………28
"	タク マ……………29
"	電業社機械製作所……………30
"	日本 碍子……………31
"	富士電機製造……………32
"	三菱化工機……………33
・編集後記	……………34
・連絡先一覧	……………表紙 3

表紙写真：葛西処理場（写真提供 東京都下水道局）

昭和56年9月に通水を開始した、荒川以東では小管処理場に次いで2番目の住民待望の処理場。全体計画は、日量94万 m^3 、99万3千人分で処理区域は江戸川区の大部分と葛飾区の1部。供用開始された施設は、北側施設の1系列分、日量16万 m^3 、10万人分、処理面積は747ha。

目次

・グラビア	
・巻頭言	島山清二……1
・対談「都下水道事業開設100年」 間片博之都下水道局長：島山清二会長	……2
・「連載」都下水道100年の変遷Ⅲ	野中八郎……6
・思い出アルバム「思い出をたどって」	根本武文……11
・下水道施設の省エネルギー対策・シリーズ②	大音透……12
・設備協「おいたちの記」	瀬戸義雄……19
・特別寄稿・百年の三分の一	杉木修一郎……20
・特別寄稿 糞尿とともに、消化槽30年の歩み	横田孝昭……22
・設備協だより	……24
・ニュースレポート	……26
・企業ファイル	アタカ工業……27
"	久保田鉄工……28
"	水道機工……29
"	月島機械……30
"	西島製作所……31
"	三井造船……32
"	三菱電機……33
・編集後記	……34
・連絡者一覧表	……表紙3

表紙写真：森ヶ崎処理場（写真提供 東京都下水道局）

城南地区の下水を一手に引き受け、また多摩川の浄化に大きな役割を担っている。処理場は運河をはさんで東と西に施設は分かれ1日の処理水量141万立方メートル（56年度末）と、日本一の処理能力をもっている。

目次

・ グラビア……都下水道100年記念式など	
・ 巻頭言	畠山清二……1
・ 年頭所感「早期100%普及めざして」	間片博之……2
" 「ベトナムにも十二支が」	森敏一……3
" 「下水道2世紀を迎えて」	加藤矯……4
" 「下水道は応用科学」	岩塚良三……5
・ 年男の抱負	野田喜一、宇高義春……6
"	豊泉久、江東正利
"	永田邦彦、染谷愿
"	岡崎登、竹中一朗
・ 新春放談	
鈴木正、時本和夫、森山源三、小林秀夫	……10
大倉英兒、西巻豊三郎、岡本久男	
・ シリーズ課題と展望・今後の下水道設備のあり方	
……	長谷川博……12
・ 思い出アルバム「汚泥は海洋環元を」	西脇晋一……17
・ 「連載」都下水道100年の変遷	野中八郎……18
・ 講演会より「21世紀の都の下水道」	間片博之……22
・ 新潟で迎える新年	目黒新一……27
・ 設備協だより・都下水道局へ陳情	……28
・ ニュースレポート	……29
・ 企業ファイル	石川島播磨重工業……30
"	荏原インフィルコ
"	住友重機械工業
"	日立製作所
"	日立プラント建設
"	前澤工業
"	三菱重工業
"	明電舎
・ 編集後記	……38
・ 連絡者一覧表	……表紙3

表紙写真：芝浦水処理センター（写真提供 東京都下水道局）

千代田、中央、港、新宿など都心、副都心からの下水を処理している。処理場の開設は昭和6年と古く、昨年水処理センターと名称を変えた。センターの上部は公園になっており、新幹線より見える処理センターとして知られている。

目次

・ グラビア……建設進む都の下水道施設	
・ 巻頭言……21世紀の都下水道に期待する……………小澤 勇太郎……………1	
・ 下水道事業の長期計画と 58年度事業の概要について……………松下 行雄……………2	
・ 「新シリーズ・23区の下水道」 荒川以東三区の下水道整備……………中里 喜一……………8	
・ シリーズ“課題と展望” 省エネ時代を迎えた維持管理……………保谷 一夫……………10	
・ 昭和58年度下水道予算を見る……………広報委員会……………16	
・ 随筆コーナー 齊藤 薫・谷口 尚弘・早野 達也……………18	
・ 講演会より“21世紀の都の下水道”(Ⅱ)……………間片 博之……………20	
・ 思い出アルバム・テレビに出演した時……………菅沼 利雄……………25	
・ 設備協だより……………26	
・ ニュースレポート・都下水道局へ陳情……………27	
・ 製品ハイライト……………石川島播磨重工業……………28	
粟田工業……………29	
月島機械……………30	
電業社機械製作所……………31	
西原環境衛生研究所……………32	
日本鋼管……………33	
・ 編集後記……………34	
・ 連絡者一覧表……………表紙3	

表紙写真：小菅処理場・西（写真提供 東京都下水道局）

下水道整備が遅れていた荒川以東地域の期待を担って、昭和52年に稼動した小菅処理場は、綾瀬川をはさみ東西に施設が分けられている。西側の15万 m^3 /日に、昨年より東側の10万 m^3 /日施設が稼動を開始した。

目次

- ・ グラビア……都の下水道デー行事・設備協の活動、
細粒材プラント稼動・南部スラッジプラント開設
- ・ はじめに「私達の生活と下水道」……………鈴木 昭…… 1
- ・ 都の雨水浸水対策について……………橋本 定雄…… 2
- ・ 連載：23区の下水道「足立区」……………古性 直…… 6
- ・ シリーズ“課題と展望”
東京都の下水道と設備技術の歩み(1) ……………長谷川 博…… 8
- ・ 随筆コーナー
田中敬一郎・森本悦夫・早野克雄・生田裕子……………16
- ・ 技術シリーズ
下水道用ポンプ技術の変遷(その2)……………西川 洗……18
- ・ 思い出アルバム：思い出、走馬灯のように……………寺田 一 彌……28
- ・ ニュース・レポート
小台処理場に軽量細粒材プラント完成……………29
- ・ 設備協だより……………30
- ・ 製品ハイライト……………荏原インフィルコ……31
オルガノ……32
久保田鉄工……33
東京芝浦電気……34
前澤工業……36
明電舎……37
- ・ 編集後記……………38
- ・ 連絡先一覧……………表紙3

表紙写真：南部スラッジプラント(写真提供 東京都下水道局)

南部スラッジプラントは、芝浦処理センターと森ヶ崎処理センターで発生する汚泥脱水ケーキを海上輸送により搬入、焼却処理するもので、この10月より300トンの焼却炉2基が本格稼動を開始した。将来は、各々の水処理センターで発生する汚泥をパイプ輸送により送泥、濃縮・脱水等のプロセスをへて焼却する計画である。

目次

・ グラビア……………中川処理場、篠崎ポンプ所完成、 設備協の事業活動	
・ 巻頭言……………維持管理時代に何を！……………小林 國 平……………1	
・ 東京都の下水道事業と昭和59年度予算について……………橋 本 定 雄……………2	
・ シリーズ“課題と展望”	
東京都の下水道と設備技術の歩み(3)……………長谷川 博……………7	
・ 23区の下水道「江戸川区」……………中 里 喜 一……………14	
・ 随筆……………池田一郎、五十嵐義行、井上 一……………16	
・ 「技術シリーズ」	
下水処理場ばっ気用ブロワ技術の変遷……………照 屋 仁……………18	
・ 欧州事情……………鈴木 正……………24	
・ ニュースレポート、維持管理講習会……………26	
・ 設備協だより……………27	
・ 資料・昭和59年度下水道予算……………28	
・ 製品ハイライト……………タ ク マ……………29	
富士電機製造……………30	
三菱重工業……………31	
・ 編集後記……………32	
・ 連絡先一覧……………表紙3	

表紙写真：中川処理場（写真提供 東京都下水道局）

足立・葛飾区のうち、ほぼ国鉄常盤線の北側の地域の下水処理を行う、区部十番目の処理場として、4月より供用を開始しました。処理方式は分流式、全体計画は1日の処理能力61万 m^3 ですが、当面37,500 m^3 の処理能力で稼働を始めました。